

平成28年度 事業報告

1. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

1) 関連研究プロジェクト

(高橋会長)

(1) 研究タイトル『女子中学生の運動習慣の向上ーダンスプログラムを通してー』

(2) 申請者：細川江利子（埼玉大学）高橋和子（横浜国立大学）笹本重子（日本女子体育大学）

高野牧子（山梨県立大学）飯田路佳（十文字学園女子大学）八木ありさ（日本女子体育大学）笠井里津子（日本体育大学）佐藤廣子（竹早教員保育士養成所・非）

(3) 研究背景

子どもの豊かな運動やコミュニケーションの乏しさによる弊害が叫ばれて久しい。特に、中学校女子では「1週間の運動時間0分が67.9%もいる」との報告がある（文部科学省平成26年度調査報告書）。この現状への対応策として、全国の中学生1万人への調査結果では、中学校女子はダンスを肯定するとともに、褒めて指導すれば運動意欲が喚起されることが明らかになった（高橋和子2015）。子どもの体に起きている異変の早期発見と対処のため、文部科学省は2016年から健康診断項目に「運動器（体を支え動かす役割をする体の器官の総称）に関する検診」を追加した。運動器の機能を改善する方法としてはストレッチやボディアワークなどの有効性が報告されているが、特に女子中学生が好む傾向にあるダンスも有効な手立てとなるのではないだろうか。そこで、本研究では女子中学生を対象とし、楽しく体を動かすことを習慣化して運動器の機能不全に対処できるようなダンスプログラムを開発し、その有効性を実証することを目的とする。

(4) 研究報告

研究1年目にあたる平成28年度は、ダンスプログラムの開発・映像作成に向けて、資料および先行研究の収集、プログラム内容の検討を行った。

2年目の平成29年度は、ダンスプログラムによる女子中学生への介入実験を行い、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」「運動器検診」等を実施する予定である。

2) 加盟団体との共同研究

(高橋会長)

以下の本部と加盟団体との共同研究を実施した。

(1) 継続 愛知県女子体育連盟（共同研究者：寺山由美）

研究テーマ「各発達別段階に応じた『創作ダンス』の諸課題の追求」

結果：本研究は、当初「各発達別段階に応じた『創作ダンス』の諸課題の追求」として開始されたが、愛知大会へ向かいつつ研究テーマが「仲間と踊る 想いを伝える 想いをつなぐ」という視点に絞られた。さらに研究の観点として、「どのようなかかわりからイメージや動きを広げることができたか」、「仲間と踊ることによってどのようなつながりが生まれたか」の2点を各部会（校種）共通の課題と設定した。愛知大会では、各部会での成果が発表された。指導者と学習者のかかわり、教材とのかかわり、学習者の主体的なかかわり等が重要であり、発達段階による様々な手立てが明らかとなった。

(2) 新規 鳥取県女子体育連盟（共同研究者：高野牧子）

研究テーマ「インクルーシブシステムとしてのダンス学習の可能性」を継続研究中

結果：ダンス学習の特性である「互いの良さや違いを認め合う」を実感できる指導の可能性と、

校種間さらに社会との連続性を探求する目的で、研究を進めた。公立一貫校において、男性教諭による小学校・中学校での連続性を見据えた授業実践などを通し、実践的研究を行うと共に、校種間で連携を図るための具体的課題を検討した。

3) 全国女子体育研究大会

第50回全国女子体育研究大会(愛知大会)

□実行委員会(加藤理事)

- (1) 期日 2016年11月18日(金)・11月19日(土)
- (2) 会場 岡崎女子大学・短期大学、愛知県立旭丘高等学校、日本福祉大学東海キャンパス、東海市芸術劇場
- (3) 主催 (公社)日本女子体育連盟、愛知県女子体育連盟
- (4) 後援 スポーツ庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県体育協会
- (5) テーマ 「愛・未来へつなげる知ーいこまい、やろまい、踊ろ舞ー」
- (6) 内容 (18日) 分科会Ⅰ(幼児・大学、高校、生涯スポーツ)授業・研究発表
(19日) 分科会Ⅱ(小学校、中学校、生涯スポーツ)・全体会
- (7) 参加者 全国の幼・保・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者等
- (8) 人数 参加者628名、講師・役員137名、公開演技参加者306名、公開演技鑑賞者316名計1387名
- (9) 参加費 6,000円
- (10) 概要 1日目18日の午前は幼稚園と大学の自由見学から始まり午後は幼稚園・大学、高等学校、生涯スポーツの3つの会場に分かれ、公開保育、公開授業、ワークショップⅠが行われ、引き続いて研究協議・指導講評、ワークショップⅡが開催された。翌日の19日の午前中は小学校において研究発表、中学校では公開授業、生涯スポーツではワークショップⅢが3つの会場で行われ、午後には、東海市芸術劇場大ホールにて全大会が行われ、オープニングから開会式、JAPEW賞授賞式、研究報告、特別公演(愛知出身の平山素子氏)、公開演技、閉会式と続いた。最後は会場全体で踊り、フィナーレとなり、大会は盛会裏に終了した。

<プログラム>

1) 分科会

	研究テーマ	会場	公開授業者	研究発表者	指導助言者
幼児・大学分科会	みんなで躍動しよう！ ～いっぱい感じて、 ワイワイ創ろう！～	岡崎女子大学・岡崎女子短期大学・岡崎女子短期大学附属ふたば幼稚園	中根理恵 篠原由香 (岡崎女子短期大学幼児教育学科学 生ふたば幼稚園)	山田悠莉 (岡崎女子短期大学) 小原幹代 (ふたば幼稚園)	高野牧子 (山梨県立大学) 岡本雅子 (豊橋創造大学)
小学校分科会	仲間と共に踊る楽しさを 味わおう！ ～児童の心をつかむ教材 づくりの工夫～	日本福祉大学東海キャンパス		大岩浩子 (知多市立新田小学校)	寺山由美 (筑波大学) 樫田秀一 (東海市教育委員会)

中学校 分科会	仲間と関わって、踊ろう、 創ろう、観せ合おう！ ～多様なイメージを引き 出すダンス学習の工夫～	東海市 芸術劇場 多目的ホール	山田誠 (弥富市立 弥富北中学校)	太田亜希子 (愛西市立佐織西中学校)	村田芳子 (筑波大学) 久網大如 (東海市教育委員会)
高等学 校 分科会	主体的に関わって、共に 踊る喜びを発見しよう！ ～互いの違いや良さに 触れながら、生涯につな ぐダンス学習モデル～	愛知県立 旭丘 高等学校	片桐浩章 (愛知県立旭丘 高等学校)	田島史織 (菊華高等学校)	細川江利子 (埼玉大学) 大野芳樹 (愛知県学校体育連盟)
生涯 スポー ツ 分科会	さあ出かけてつながり 合おう ～笑顔広がる健康づくり ～	日本福祉大学東海 キャンパス	I 伊藤 敦子「健康体操」 II 飯田 路佳「ダンスムーブメン ト」 III 坂部 弥生「健康体操」 IV 鈴木 美帆「チアダンス」	笹本重子 (日本女子体育大学)	

【全体会】会場・時程 東海市芸術劇場 大ホール
13:00 13:45 14:20 14:40 15:15 16:10 16:30

受付	オープニング 開会式	JAPEW 賞 授賞式	研究報告	休憩	特別講演	公開演技	閉会式
----	---------------	----------------	------	----	------	------	-----

2. 女子体育に関する講習会及び育成事業

1) サマーセミナー

JAPEW SUMMER SEMINAR 2016—平成28年度夏期講座—

- 生涯スポーツ／授業・保育／研究交流専門委員会(飯田常務理事、佐藤常務理事、寺山理事、長津理事)

期 日 2016年8月27日(土)・28日(日) ※29日(月)ー学校体育コースのみ

後 援 スポーツ庁、東京都、(公財)日本体育協会、(公財)スポーツ安全協会、
(公財)ミズノスポーツ振興財団

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター (NYC)

内 容 講演(開講式・講演)、ワークショップ(実技・理論)

参加者 全国幼保・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者等

参加費 生涯スポーツコース：2日料金：会員12,960円、一般15,120円、学生7,560円

※会員＝正会員・特別会員および購読会員

学校体育コース：1日料金：会員6,480円、一般7,560円、学生3,780円

※学校体育コースは1日ごとの参加が可能

DMI Lクリニック(1日間) 会員5,400円

教員免許状更新講習(1日間) 会員・非会員 6,480円

養成講習会(3日間) 会員・非会員・学生 16,200円

<概 要>

本年度のテーマは、「アクティブ・ラーニングとしてのダンス―主体・共生・創造―」とした。さらに、生涯スポーツコースは「“道・動・導 ～D oする?～」、学校体育コースは「アクティブ・ラーニングとしてのダンス授業」をテーマに、2日間開催された。今年度は、学校体育コースは3日間開催とし、1日ずつの受講を可能とした。また、教員免許状更新講習が同時に開講された。加盟団体から1名の無料参加を募り、8団体が利用された。参加者の内訳は、会員147名、一般68名、学生17名、加盟団体枠8名の計240名であった。また、教員免許状更新講習は、延べ人数22名が受講した。

初日、生涯スポーツコースで甲野善紀氏による講演「武術から学ぶ驚きの身体操作法～からだが楽になる使い方～」から始まり、本連盟顧問である片岡康子氏をはじめ、バラエティに富んだ内容で実技が行われた。学校体育コース（教員免許状更新講習を含む）では高橋修一氏による講演「育成すべき資質・能力に基づいた体育・保健体育の指導の在り方」から始まり、育成すべき資質・能力を踏まえたダンスを含む体育学習への適切な提言が示された。午後からは高橋和子会長、田島正浩氏の実技が行われた。

2日目は、生涯スポーツコースで山口創氏による講義「ココロとカラダー身体心理学から考える健康になるヒント」、安井洋子氏による実技「生き生きと生活するために必要なピラティス」から始まり、多様性のある実技が開講された。学校体育コース（教員免許状更新講習を含む）では、外部講師として赤堀文也氏をはじめ、ダンス指導の具体的な指導法を中心においた実技が行われた。

3日目は、DMIL指導員クリニックおよび養成講習会を開講した。学校体育コース（教員免許状更新講習を含む）において運動会や部活動の指導を中心に実技が行われた。

参加者のアンケートでは、「レベルの高い内容で、よい刺激をたくさんもらった」などの感想があり、それぞれ設定したテーマに即した講習会であった。一方で、「講習日が参加しにくい日程」などの意見もあり、今後も検討や改善が必要であることが示唆された。

■プログラム

8月27日 (土)	9:30 10:00 10:20 11:50 13:00 14:20 14:35 15:55 16:10 17:30 19:00										
	生涯スポーツコース	受付	開講式	講演 甲野善紀 【セ417】	昼食	実技① 佐藤廣子 【ス1・2体】	実技② 飯田路佳 【ス1・2体】	実技③ 片岡康子 【ス1・2体】	休憩	復習1 【ス1・2体】	復習2 【ス1・2体】
8月28日 (日)	8:30 9:00 10:15 10:35 11:50 12:50 14:10 14:20 15:45 16:20										
	生涯スポーツコース	受付	講義 山口創 【セ102】	実習 安井祥子 【ス1・2体】	昼食	実技④ 高橋真琴 田中安理 【ス1・2体】	実技⑤ 鴨志田加奈 【ス1・2体】	実技⑥ まとめ 【ス1・2体】	開講式 【ス1・2体】		
8月29日 (月)	8:30 9:00 10:20 10:40 11:50 13:00 15:00 16:00										
	学校体育コース (演習機織を含む)	受付	実技③ 笠井里津子 【ス3体】	実技④ 細川江利子 【ス3体】	昼食	実技⑤ 赤堀文也 細川江利子	実技⑤に関する 質問コーナー 【ス3体】			演習機織のみ 試験/15:00~ 【ス5体】	
8月29日 (月)	8:30 9:00 10:20 10:40 11:50 13:00 15:00 16:00										
	学校体育コース (演習機織を含む)	受付	実技⑥ 長津芳 【ス4体】	実技⑦ 米沢麻佑子 【ス4体】	昼食	実技⑧ 小笠原大輔 【ス4体】	閉講式 【ス4体】			演習機織のみ 試験/15:00~ 【ス5体】	
	クリニック	付	※内容は有資格者ご別途ご案内 【カリハ】			【カリハ】					
	演習機織		※詳細内容は受付時ご案内 【カ41、42、43】			【カ41、42、43】					

2) 未来世代の研究発表会

第60回未来世代の研究発表部門&卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会(宮本理事、茅野理事)

期 日 2017年2月11日(祝・土)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(カルチャー棟小ホール)

内 容 ①研究発表部門 <第60回未来世代の研究発表会(卒論・修論)>

②卒業ダンス作品発表部門

<概要>

3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による、研究とダンスの発表会が無事に終了した。各大学において、ご指導下さった先生方に心より感謝申し上げたい。当日は研究発表者54名、ダンス作品発表者42名(このうち両方に参加した学生は15名)、ダンス招待校生徒・学生51名、座長や関係者、観客としての来場者を加えて300名を超える参加人数であった。

研究発表は、口頭発表4題、ポスター発表48題のエントリーを得て活発に質疑が行われた。ダンス

発表は、今年も様々なジャンル（モダン、コンテンポラリー、創作、リズム系等）様々なグループ（研究室、部活動、有志等）からの8エントリーと招待作品2作であった。会場はほぼ満席、卒業の思いをかみしめながら踊り、また鑑賞し、心からの拍手や声援で盛り上がる会となった。

参加者アンケートより紹介する。口頭発表「実際に教育現場を経験された方の発表は、とても説得のある論文であったと思う。教育実習を経験したのでイメージしながら聞いてそれいいな!という目線で聞くことが出来た」「それぞれテーマに沿って丁寧に調べていて聞いていて面白かったです。」ポスター発表「様々なテーマの発表があり、広く学ぶ事ができました。」「自分が研究したことに対して一生懸命に発表を行っていた様子が感じられました。」ダンス「貴重な舞台に立たせて頂けたこと、いろんな方の4年間の集大成を見ることができたこと大変嬉しく思います。ありがとうございました。」「全ての大学からエネルギーを感じました。来年度から教員という職に就きますが、ダンスの魅力を子ども達に伝えていきたいです。」「招待作品、素晴らしかったです。生で見られて良かったと思いました。」フィナーレは出演者を中心に参観者も巻き込んで踊りと友好の輪が広がった。未来を担う若者を応援するこの行事を継続していきたい。

3) ダンスムーブメントセミナー

□指導員制度専門委員会（笹本副会長）

広域連携推進事業／ダンスムーブメントセミナー2016 in 埼玉

共 催 埼玉県女子体育連盟
期 日 2017年2月18(土)・19(日)
会 場 埼玉県立武道館
後 援 スポーツ庁 埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会 公財) 埼玉県体育協会
講 師 細川江利子、笹本重子、高橋和子、高野牧子、八木ありさ・宗村典子 (DMIL-A級インストラクター)、佐藤廣子
参加数 県外40名、県内60名、講師等16名 計116名

<概 要>

埼玉県女子体育連盟のご尽力により、県内外の生涯スポーツ指導者・学校体育関係者等、北海道から沖縄までの広い範囲からダンスムーブメントに関心の高い方々が参集し、講義と実技の充実したセミナーとなった。さらに、多くの県から大勢が参加された懇親会では楽しく和やかな交流の時間を共有することができた。温かなご配慮とつながりに感謝を申し上げたい。また、県内の方々にDMILへの関心を高めていただけたようであり、普及・促進への嬉しい実りを感じている。

4) 「ダンスムーブメント指導員」養成事業（略称 DMIL）

□指導員制度専門委員会（飯田常務理事、佐藤常務理事、小松理事）

①「ダンスムーブメント指導員」養成講習会 <A級-第12回、B級-第17回、C級-第20回>

期 日 2016年8月27日(土)・28日(日)・29日(月)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 理論、実技 計21時間 (※27日・28日はサマーセミナーAコース受講に代える)
講 師 高橋眞琴、飯田路佳、佐藤廣子、飯田義明

受講者 今年度資格取得希望者 A級0名、B級3名、C級3名 計6名

②「ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日 2016年9月17日(金)・18日(土)・19日(日)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内 容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験

講 師 高橋和子、高橋眞琴、笹本重子、細川江利子、八木ありさ、高野牧子、
飯田路佳、佐藤廣子

受講者 B級3名、C級3名

合格者 B級3名、C級3名

検定委員 村田、片岡、高橋眞、林、高橋和、笹本、細川、飯田、佐藤

概 要 本年も、優れた資質の指導員を輩出することができた。今回はA級受講者が0名だった。
詳細は『女子体育』10・11月号で報告した。公認指導員現数は159名。

③「ダンスムーブメント指導員」クリニック

期 日 2016年8月29日(月)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内 容 実技研修

講 師 片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、笹本重子、笠井里津子

受講者 A・B・C級 有資格者 57名

概 要 本年も多くの公認指導員の参加があった。クリニックおよび養成講習会に関する詳細は
『女子体育』12・1月号で報告した。

3. 機関誌その他の学術刊行物の発行

1) 『女子体育』編集発行

□『女子体育』編集専門委員会(高野常務理事、高橋うらら理事、中村理事)

①刊行 隔月刊・年間6回とし、発刊は発刊月前月の25日発刊とした。

構成：通常号4本、特集号2本(ダンス指導解説特集号、AJDF報告特集号)

②方針 平成28年度も引き続き、通常号80頁、増刊号120頁、横書き、写真の掲載等、同様の方針で
取り組んだ。

③購読料 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円

④年間テーマ

「アクティブ・ラーニングとしてのダンス —主体・共生・創造—」

⑤月テーマ

○4・5月号(通常号) 主体的に学び合う・育ち合う

年間テーマである、「アクティブ・ラーニング」をわかりやすく解説するとともに、学校教育での
アクティブ・ラーニングとしての表現・ダンス授業実践だけでなく、生涯スポーツでもアクテ
ィブ・ラーニングの概念を取り込んだダンス指導実践を紹介した。

○6・7月号(通常号) 男性教師から学ぶ

中学校1・2年でのダンス必修化に伴い、ダンス授業は女性教師が行うものという時代は終わり、全国各地で男性教師の素晴らしい表現・ダンス指導が展開されている。性別に関わらず、誰もが表現・ダンス指導ができるように、本誌が勇気づけになればと願い、ベテランの授業から初めて取り組んだ授業まで男性教師の多様な実践を報告した。

○8・9月号（特集号）

特集「アクティブ・ラーニングによる表現・ダンス指導事例集」

ダンス指導において、どのように主体・共生・創造を生み出していくのか、アクティブ・ラーニングの切り口から、具体的なダンス指導事例を紹介する。

誌面構成は、理論編としてアクティブ・ラーニングについて概説した上で、実践編では、1.2ページでは、活動のねらいや対象などの概要、学校教育であれば、単元計画など。続く3ページからは見開きページの構成とし、左頁に活動の展開を記し、右頁にはその解説を付けた。

○10・11月号（特集号）「第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）報告特集号」

○12・1月号（通常号）踊る快感・動く楽しさ

運動嫌いの子どもたちから運動をほとんど行わない高齢者まで、その問題は幅広く存在している。生涯に亘り、皆が健康に生活していくために、競わず、争わず、一人でも、あるいは誰とでもできる表現・ダンスの果たす役割は大きいと考える。そこで、ダンスの本質に切り込み、リズムに乗って弾み踊るダンスの快感、動くことそのものが楽しいと感じることなど、ダンスの本質に触れるような実践を取り上げた。

○2・3月号（通常号）溢れる想いを表現に

ダンスが体操等の競技と大きく異なるのは、その想いを動きに託し、表現していくことではないか。表現することを中心に据え、1年の締めくくりとして、アクティブ・ラーニングの中で主体的に気持ちに添って体で表すことの大切さを改めて考えていきたい。

- 2) 『学術研究』発行 □『学術研究』編集委員会（高野牧子常務理事・佐分利理事）
『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第33巻を刊行した。

4. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

1) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

<29th All Japan Dance Festival-Kobe>

□AJDF-KOBE実行委員会（八木常務理事・平田理事）

期 日 2016年8月3日(水)・4日(木)・5日(金)・6日(土)
会 場 神戸市／神戸文化ホール・神戸市立中央体育館
主 催 (公社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会
主 管 第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 実行委員会
後 援 文部科学省、スポーツ庁、(公財)日本体育協会、NHK(日本放送協会)、
(公財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、
兵庫県教育委員会、(公財)神戸市スポーツ教育協会、
(公財)ミズノスポーツ振興財団、(一財)地域活性化センター

協 賛	(株) 日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社
協 力	(公財) ユーハイム・体育スポーツ振興会
内 容	①開会式 ②創作コンクール部門(高校/予選・決選、大学/予選・決選) ③参加発表部門 ④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品) *特別プログラムは大ホールにて2回公演 (入場料¥4,000)
表 彰	文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1) 特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)
参加校数	①創作コンクール部門 高校/90 ・大学/27 計117校 ②参加発表部門 高校/45 ・大学/18 計63校 (サポちゃんズ含64作品)
参加人数	①創作コンクール部門 高校/1,970 ・大学/480 計2,450名 ②参加発表部門 高校/ 821 ・大学/334 計1,156名
参加都道府県数	29
TV放映	NHK Eテレ 8月20日(日) (愛知・岐阜・三重は8月27日)
その他	・第20回大会記念DVD (20年間のテレビ放映映像を含む総集編)販売 ・第29回大会のDVD(Blu-ray)販売の申し込み ・大会の詳細を『女子体育』10・11月号報告特集号に報告

<概 要>

参加者数は延べ3,606人で概ね昨年並み、参加校数は微減となった。参加都道府県の増加については今後も取り組んでいきたい。開会式ではここ数年の例に倣い、参加校紹介、参加者代表による宣誓とサポちゃんズ協力による「みんなでおどろう」などを実施した。本年もNHK放映のために幕開けコートを中ホールで撮影する、舞台袖から見た舞台上の様子をサイドスポットライト支柱に取り付けたミニカメラで撮影する、などの希望があり、総務と式典係が対応した。参加作品のための音楽使用に関する報告書書式の改訂、また美術品などの知的財産権に関わるルールについて情報収集し、次年度以降へ向けての課題を整理し、開催要項に反映するようにした。

2) 国際的な研究交流事業

□国際交流専門委員会(八木常務理事 田中葵委員長、伊藤理事)

① 国際女子体育連盟 (IAPESGW)、その他諸団体との連携

- 日本代表である(公社)日本女子体育連盟会長・高橋和子、NPO 法人 JWS (Japanese Association for Women in Sport) 代表・小笠原悦子氏、WSF ジャパン (女性スポーツ財団) 日本支部事務局・高橋昭子氏との連絡調整を行った。
- 2021年に第19回 IAPESGW 大会を東京で行うことの可能性について、定例理事会、常務理事会、IAPESGW 執行部などから意見聴取、並びに情報収集を行い、招致準備委員会を設置して招致案を策定。NYCに事前予約を相談の上、IAPESGW 担当部署に申請した。
- IAPESGW 責任発行 “Inspirational women in Asia: making a difference in physical education, sport and dance. (Edited by Canan Koca, 276 pages)”, 担当部分’Pioneers for Dance Education of Japan in Modern History (120-137) (2016年9月発行) を執筆した。

② インターナショナル・ダンス・ワークショップの開催

期 日 2016年4月30日(土) 14:00~16:00

会 場 日本体育大学世田谷キャンパス スポーツ棟 1F ダンス場

主 催 (公社) 日本女子体育連盟

協 力 フィットネスセッション実行委員会

講 師 Bonnie Bainbridge Cohen氏

内 容 Body-Mind Centering®創始者であり、アメリカのソマティクス(身心学)の先駆者である Bonnie Bainbridge Cohen氏を迎え、「内側から捉える、感じる、身体」を基盤としたダンスワークショップを実施した。骨格標本を用いて解剖学的に体の仕組みを学んだ後、骨盤からの足の動かし方等、体の内側を意識する内容を体験した。丁寧な説明と共に、骨を一つ一つ意識することで、参加者は普段の体の動かし方との違いに驚き、新たな身体感覚を発見している様子であった。また、受講後のコメントシートから、今後の体の動かし方、踊り方にいきる内容であったことがうかがえた。

参加者 65名(一般4名、会員11名、学生50名)

参加費 会員3,240円 一般5,400円 学生2,160円

③ (公社) 日本女子体育連盟活動情報の国外への発信

- ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。
- IAPESGW News Letter へ連盟の活動を投稿した。

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1) JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会(笠井常務理事、石澤理事)

JAPEW 賞は社団法人日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、平成 16 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、24 年度に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに平成 26 年度に「松本千代栄賞」が制定された。2016 年 5 月 29 日に、松本千代栄賞選考委員会、功労賞選考委員会、指導者賞選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。表彰者には、第 50 回全国女子体育研究大会(愛知)開会式(11 月 19 日)において表彰状と副賞を授与し、顕彰した。なお、表彰者氏名は機関誌『女子体育』誌上および HP 上で公表した。

① 第3回松本千代栄賞

受賞者 三宅 香氏(兵庫県)

選考委員会(委員長) 高橋和子

(委員) 杉山重利、川口千代、片岡康子、村田芳子、笹本重子、細川江利子

② 第5回 JAPEW功労賞

受賞者 池田裕恵氏(東京都)、坂佳代子氏(宮崎県)、島内敏子氏(東京都)

外山陽子氏(新潟県)、林真幾子氏(東京都)

選考委員会(委員長) 高橋和子

(委員) 杉山重利、片岡康子、高橋真琴、林真幾子、笹本重子、石澤宣子

③ 第13回 JAPEW指導者賞

受賞者 石井尚子氏(東京都)、木村みや子氏(神奈川県)、倉林栄子氏(埼玉県)、

坂田浩美氏（鳥取県）、樋ちなみ氏（山梨県）

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）山西哲郎、林眞幾子、細川江利子、飯田路佳、佐藤廣子、小松恵理子

④JAPEW研究奨励賞

受賞者 該当者なし

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）金子明友、細川江利子、八木ありさ、高野牧子、笠井里津子、茅野理子

6. 広報・普及活動

□広報・普及委員会（高野美和子委員長）

1) 『女子体育』購読促進活動

- ・『女子体育』購読会員増員のための活動（広報・普及および編集専門委員会、事務局）を行った。
- ・新規及び継続会員獲得、新卒学生への購読推進及び購読期限切れ会員への対応を行った。

2) 企画・広報

- ・事業報告・事業計画・財務諸表（決算書・予算案等）の情報をHPに公開した。
- ・各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
- ・未来世代の研究発表会のエントリーをHP上で行った。
- ・加盟団体の情報をHPに掲載し、相互リンクを行った。

3) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第33巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開した。